

◎ 発行 中京大学  
〒466-8666  
名古屋市中区八事本町101-2  
■中京大学スポーツ編集局  
(スポーツ振興室内)  
TEL 0565-46-6935  
http://www.chukyo-u.ac.jp



# 中京大学スポーツ

学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ



2013 (平成25) 年  
11月14日

第5号

## すぐそこにソチ五輪

2014年2月7日開幕のソチ冬季オリンピックに出場を目指す中京大学の1年生選手が2人いる。フィギュアスケートの村上佳菜子選手(スポーツ科、中京大中京)と、スノーボードクロス富田マリア選手(スポーツ科、菅)。すでに国際大会に数多く出場しているが、オリンピックは別格だ。4年に一度巡ってきたチャンスを生かそうと、厳しい練習をこなし、冬のスポーツ最高の舞台に挑もうとしている。

### 村上佳菜子選手 3回転に磨き

「フィギュアは生まれた時から付き合っている。自分の人生そのものです」  
村上選手は、姉が山田満知子コーチの指導を受け、母親について幼年期のころからリンクに通っていた。その後、シニアの特別強化選手になり、昨シーズンは全日本選手権2位、世界選

「と村上選手。3回転リップ、3回転トゥールプの連続ジャンプは、昨年より跳べるようになったが、勝負にいけないに確立したい」と、磨きをかけている。

### 1年生2人「4年一度」に挑戦

午後には中京大アイスアリーナで練習に没頭している。大学入学後から、体幹トレーニングも始め、スケートインクが安定し、「ジャンプの切れがよくなりまし



山田満知子コーチ(左)と二人三脚でソチ五輪へ向けた練習をする村上佳菜子選手

## 硬式野球1部復帰即V

### 王座戦準優勝 「負けない野球」浸透

硬式野球部は、愛知大学野球秋季リーグの名商大戦(10月12日)で、9季ぶり34回目の優勝を決めた。名商大に連勝し、全5校から勝ち点を奪う完全優勝を達成。しかも7季ぶりに1部

に復帰して即優勝の快挙だった。さらに、明治神宮大会への出場校を決める「東海・北陸・愛知三連盟王座決定戦」では準優勝を果たした。6年ぶりの神宮大会出場は逃したが、半田卓也

監督が目指した「負けない野球」が結実した。快挙達成には、練習の積み重ねによる裏打ちがあった。2部でいた3年間、あ

と一歩のところで何度も1部への壁にはね返されてき

清水翔太投手(体育4、麗

澤瑞浪)、敢闘賞の岡部直人投手(スポーツ科2、いな



4番打者に育った2年生の鈴木孝幸選手。11月4日の王座戦決勝でも、2安打を放った(現代社会2 岩月美奈撮影)

は「レギュラーもそうだが、1年間の4年生の働きを、伝統復活への土台にしたい」と来季に目を向けた。

な、と思っ

### ソチ五輪めざす本学関係者

ソチ五輪出場を目指す中京大学の現役学生や同窓生は多い。

フィギュアでは、10年バンクーバー五輪銀メダルの浅田真央選手(体育4、中京大中京)が、「最後の舞台」と位置づけており、メダルの期待がかかる。11年世界選手権2位の小塚崇彦選手(体育学修士2)、今年3月の世界選手権8位の無良崇人選手(13年体育卒)、11年世界選手権優勝の安藤美姫選手(11年体育卒)もソチを狙う。ペアに転向した木原龍一選手(スポーツ科3、中京大中京)、ショートトラックの世界明斗選手(体育4、中京大中京)、清水小百合選手(11年経営卒)も、ソチを目標にしている。

モーグルは、バンクーバー12位の伊藤みき選手(10年体育卒)が、「金メダルを狙う」と宣言しており、注目される。岩本瞳子選手(スポーツ科3、白馬)は初出場を目指す。

アルペンスキーで出場確実な湯浅直樹選手(体育学修士1)は、男子回転で06年トリノ五輪7位、昨年のW杯3位の実績がある日本のエダ。カーリングの小野寺佳歩選手(体育4、常呂)は北海道銀行チームの一員として12月の世界最終予選に臨む。

今年3月の米国遠征の際、本戦で転倒し、左足の前十字靭帯を損傷した。帰国後4月に手術を受け、9月から本格的に練習を再開した。「もう大丈夫です。手術をして、かえって足がつかなくなった感じがします」と、怪我は気にならない。

### 12月からの雪上練習に向けてトレーニングをする富田マリア選手



富田選手は「タイムや順位で勝負が決まるところが自分に向いている」と話す。

富田選手は父親がスノーボードのアルペン選手で、小学1年からスノーボードを始めた。ボードクロスは、小学4年から始め、ブ

### 富田マリア選手 大けがを克服

富田選手は父親がスノーボードのアルペン選手で、小学1年からスノーボードを始めた。ボードクロスは、小学4年から始め、ブ



# 学生の3割「球場で友人に会う」

## 「観戦楽しみ」6割

中央大学のスポーツを盛り上げる「応援プロジェクト」の一環で、村上隆・現代社会学部教授のゼミが、愛知大学野球秋季リーグの中大戦が開催された名古屋市瑞穂球場で、観客を対象に2回アンケートした結果をまとめた。

調査は1回目が9月14日、2回目は10月5日。ゼミ生が観客席を回り、アンケート用紙に記入してもらった。1回目は87人(男65人、女22人)、2回目は175人(男115人、女60人)の有効回答を得た。

2日とも40、50歳代が約半数を占め、30歳代は少なかった。選手の家族や友人・知人が目立ち、同窓生、高校球児、一般野球ファンも見られた。

愛知大学野球の観戦回数は、「11回以上」が半数前後。「0-2回」のビギナーも1回目24%、2回目30%と意外に多かった。「どんなことが楽しみか」(複数回答)の質問には、「野球観戦そのもの」が約6割と圧倒的。次いで「応援している選手の活躍」が3割強、「自分の大学が勝つ」は2割強と少なかった。

大学生の回答者は、1回目の5人から、2回目は21人に増え、うち7人が初観戦。7割が選手の友人・知人だった。大学生の「楽し

## 現社・村上ゼミが瑞穂球場で2回調査



瑞穂球場で観客にアンケートする村上ゼミ生(経済3 山本泰輔撮影)

み」は、「野球観戦」「応援選手の活躍」が6割前後だったが、「友人・知人と会う」が28%と、「自分の大学が勝つ」の14%を上回ったのが特徴的だった。

また、回答者の自由記述では、「お客さんが増える施策を」「チケットの回数券を」といった意見や、「瑞穂球場でいつも試合をして」など会場の要望もあった。

## 応援に行こう

# 選手を知る 観戦仲間を作る



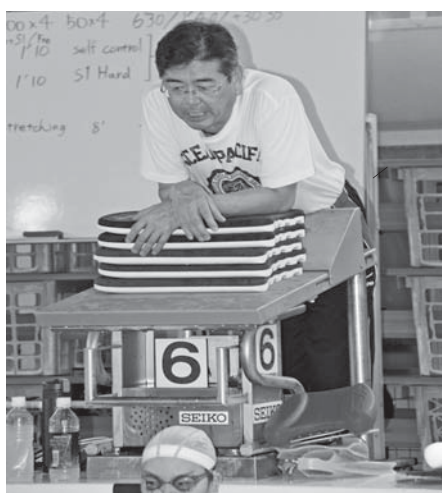
## 村上教授 学生の参加策を提言

村上隆・現代社会学部教授は、瑞穂球場の調査結果を踏まえ、大学野球の応援をする学生を増やす方法を次のように提言した。

写真などで構成した1分間のビデオを作り、大型スクリーンで見せる。協力してくれる教員には、授業前に教室で放映してもらおう。応援したい選手を作るには、選手の名前や顔がよくわかるパンフレットも必要だ。

「一体感」は、プロ野球では、リピーターになる最大の要因である。応援団の復活は難しく、瑞穂球場では楽器演奏が禁止されている。代わりに、控え選手とチャアリーダーによる応援を、一般学生も入りやすく変えるのはどうか。応援グッズを入場時に渡すのもいい。街中でも着て歩ける応援ユニフォームを球場で購入できれば、次の「居場所感」にもつながる。

球場で「友人・知人と会うのが楽しみ」という学生が調査で目立ったが、これは「居場所感」の手掛かりだ。一緒に仲間を作るため、ゼミ単位で割引券を配るのが手始めかもしれない。



小池隆治さん 1983年中京大学体育学部卒。52歳。中京高校(現・中京大中京)、中京大学で水泳部に所属、4年生で主将を務めた。卒業後、豊川高校で保健体育科教諭、発足間もない水泳部の監督に就任。2010年からは部長として指導。豊川高校は全国高校総体に31年連続出場している。

## 指導30年「やっと形に」

「水泳部を最初から作り上げた」と、小池さんは豊川高校水泳部の指導を始めて30年になる。この夏の全国高校総体で、男子が2連覇、女子は初優勝という最高の成果を勝ち取った。「時間はかかりましたが、やっと形になりました」と、顔をほころばせる。

高橋繁浩・中京大学水泳部長兼監督(スポーツ科学部教授)とはその気にさせるか。小池さんは「日本代表になれる。やってみないか」と大きな目標を与えている。一方で、「できるんだよ」と言って常に励ます。試合で力を出せない子には、「これも経験だよ」と声をかける。精神的に弱いと言われてきた子には、自信を持たせている。トレーニング方法なども考えるが、「言葉をかけてあげるのが私の仕事」と心掛けている。

選手約40人の大半が寮生活を営む。小池さんは、コーチで妻の美保さんと交代で寮に泊まり、勉強や生活態度にも気を配る。最後の目標にしたい。

## 先輩NOW

2020年の東京オリンピックは、定年1年前の開催となる。すでに数多くの代表選手を輩出してきた小池さんは、きつぱりと話す。「東京五輪に選手を送り出すのを最後の目標にしたい」

# CISPが効果を発揮

## 水泳 ほぼ全員が自己新 硬式野球 下半身使った投球

中央大学の学生アスリート支援事業「CISP」の発揮で効果が表れている。専属トレーナーの指導を常として、今季はほぼ全選手が自己ベストを更新した。草薙健太コーチ(スポーツ部)が自己ベストを更新した。日本代表選手7人、五輪強化選手8人を輩出し、イリノカレで男子総合優勝(3コーチ)と、CISPの目指す、故障せずに練習を続ける環境が整ってきた。

秋季リーグで9季ぶりの優勝を果たした硬式野球部(1面に関連記事)では、投手への効果が顕著だ。「今まで使えてなかった腕や体幹を使えるトレーニングをしてもらった。投手に必要な軸足の粘りや下半身を使った投球を身につけられた」と半田卓也監督は話す。

CISPディレクターの室伏広治・スポーツ科学部准教授は「怪我をさせないための予防効果だけではない。スピードアップ、制球、スリートの動きの質もよくなった。リーグ優勝自体が高まっていくため、各競技の専門スキルをより高いレベルで習得しやすくなる」と話している。

中央大学のスポーツ情報 大学HPの「スポーツ」(<http://sports.chukyo-u.ac.jp/>)、facebook「スポーツ振興室」(左下QRコード)で紹介しています。

「中京大学スポーツ」に関するご意見は、スポーツ振興室(sports@mng.chukyo-u.ac.jp)へお寄せください。

## 豊川高校水泳部部長 小池隆治さん



# 世界に羽ばたいた夏

また、ハンマー投げの室伏広治選手(スポーツ科学部准教授)が6位に入賞。4000メートルの安部孝駿選手(体育4、玉野光南)は予選敗退だった。

世界水泳(スペイン)には、自由形の伊藤健太選手(体育学修士1)が出場したが、惜しくも予選敗退。バタフライの松田丈志選手(2009年体育学修士修了)は準決勝に進出した。

東アジア大会の陸上は、棒高跳びの山本選手が1位、4000メートルの市川華菜選手(13年体育卒)が2位となった。水泳は、OBも含め5選手が出場。長谷川純矢選手(スポーツ科2、島田)が50メートル背泳ぎ3位、橋爪久司選手(体育4、洛南)が50メートル背泳ぎ5位、100メートル背泳ぎ4位、大川孝明選手(スポーツ科3、鹿島学園)が200メートル背泳ぎ2位となった。箕成貴之選手(10年体育卒)が400メートルフリーレール1位、白井裕樹選手(12年体育卒)が100メートル背泳ぎ3位、200メートル背泳ぎ4位となった。

バレーボールでは、川島里華選手(体育4、九州文化学園)が出場、銀メダル獲得に貢献した。

世界選手権(8月)、東アジア大会(10月、天津)の国際大会で、中京大学の選手たちがメダル獲得や入賞する成果を挙げた。

世界陸上(モスクワ)では、棒高跳びの山本聖途選手II写真II(体育4、岡崎城西)が、自己ベストタイの5.75を跳び、この種目で日本人選手過去最高の6位に入賞した。山本選手は「ロンドン五輪を経験した昨年よりも、一段階、二段階強くなった」と自信を持って、日本記録の5.83越えが次の目標だ。



## メダルや入賞相次ぐ

### 勝ちにこだわり栄冠つかむ

ソフトボール部女子は、9月7-10日に大阪府で開催された第48回全日本大学女子選手権(インカレ)で初優勝を飾り、文部科学大臣杯を手にした。

初戦の早大戦は七回裏、代打森口綾香選手(体育4、星城)の2点本塁打で同点に追いつき、延長八回でサヨナラ勝ち。これで勢いに乗り、城西大、福岡大、IPU環太平洋大戦を撃破した。

決勝の相手は、2年連続6回優勝している園田学園女子大。延長八回表に1点先行されたが、その裏に塚本智名選手(スポーツ科3、水口)が、逆転サヨナラ打を打ち、劇的勝利を取った。エースの長谷川朋子投手(体育4、浜松市立)は全5試合で先発、力投し

## 女子ソフトインカレ初優勝



天皇杯獲得を喜ぶ水泳部員

## 水泳男子2度目の天皇杯

### OB指導のチームも全国V

水泳部男子は、9月6-8日に広島市で開催された第89回日本学生選手権(インカレ)で、3年ぶり2回目の総合優勝を果たし、天皇杯を獲得した。

初日は、日高郁弥選手(スポーツ科2、佐賀学園)が400メートル自由形1位の栄冠を手にした。2日目は川本武史選手(スポーツ科1、豊川)が100メートルバタフライ3位、最終日は橋爪久司選手(体育4、洛南)が100メートル背泳ぎ1位となった。3日間総合1位をキープし、2位も、会場に駆けつけた。

高橋部長は祝勝会で、「インカレでは、日本35回、早大31回、中央大は15回優勝している。いつかは、中京大も肩を並べたい」と語った。今年、中京大水泳部OBが指導者を務める愛知淑徳中学校、豊川高校、実業団のJFE東浜も全国優勝し、各年代で中京大水泳部の実力を示した。

会場の広島市は、高橋繁浩・水泳部長兼監督が2年連続で尾道高校がある、ゆかりの地だ。高橋部長ら尾道高校で指導した後、中京大に移り、水泳部の礎を築いた鶴峯治・元監督も、会場に駆けつけた。



初優勝記念の撮影をするメンバー

### 「前後裁断」メンタル面を改善

二瓶雄樹監督(スポーツ科学部講師)は、初優勝の要因を三つ挙げる。大きいのはメンタル面の改善だ。二瓶監督は、江戸時代に沢庵和尚が武士に説いた「前後裁断」を掲げた。過去も未来も断ち切り、現在に集中する意味で、七回の21アウトすべてに同じ集中力を発揮し、「どんな状況でも自分の力を出し切る」よう呼びかけた。

また、CISPの体幹トレーニングも取り入れたことで、確実なプレーに結び付いた。さらに、データ班が相手打者の打球の傾向を分析し、打者によって大胆な守備位置の変更を徹底した。そして何より、「勝ちにこだわった」(二瓶監督)結果が初優勝だった。

### 先生に聞こう



回答者 来田 享子・スポーツ科学部教授(体育・スポーツ史)

質問 2020年の東京オリンピック開催が決まりましたが、中京大学とオリンピックの関わりとその意義について教えてください。(スポーツ科学部1年 浅井 真子さん)



## みんなにオリンピックの可能性

中京大学から初めてオリンピックに選手が出場したのは、1960年のローマ大会である。大学が開学して4年、体育学部体育学科設置の翌年あたり、本学はその歴史の始まりの時期からオリンピックと深く関わってきた。

役員や指導者として大会に係わった教員も多い。その一人である齋辰雄(とき・たつお)先生は、オリンピック選手として活躍した後、徳島新聞の総務局長などを経て、1952年から本学の教育に携わった。50歳を過ぎてからスポーツを墨絵として描くことに情熱を注ぎ、墨絵や陶芸の

世界を自らの「第二のグラウンド」にしたと言われている。

齋先生のようなオリンピックとの関わりは、オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンが目指した目的と深く結びついている。クーベルタンは古代ギリシャのオリンピックを1896年に現代風に復興した。復興にあたり、クーベルタンが理想として描いたのは、身体と芸術と精神が完全に調和した人間が生きる社会の姿であった。オリンピックが国別対抗メダル争いの国際スポーツ大会とは異なった扱いを受けているのは、こうしたクーベルタンの理想に基づく社会運動(オリンピック・ムーブメント)の一部として、大会が運営されているためである。

この社会運動に関わる人々にとっての憲法のようなものがオリンピック憲章である。そこには、大会の運営に関わる事柄だけでなく、オリンピックの理念やあらゆる差別なくスポーツを通じて調和のとれた人間が世界の平和を目指すことが記されている。

中京大学とオリンピックの伝統を踏まえ、オリンピックに出場しただけではオリンピックとは呼ばれない一方で、オリンピックと呼ばれるにふさわしい学生になることは、すべての中京大生に開かれた可能性なのだと考えてほしい。

## 新星・牧野 QB手応え



好プレーを見せる牧野選手

### アメフト 来季を見つめる

アメリカンフットボールの名城大戦に勝利し、来季の牧野悠大選手(総合政 部の手応えをつかんだ。

「先輩達がカッコ良かった」とアメフトを始めた。チームは怪我が相次ぎ、リーグ優勝を逃したり、花形ポジション。「パイ」は攻撃の司令塔であり、牧野選手は攻撃システムはほとんどQBが投げ、QB次第で試合の流れを徐々に身に着け、最終的にQB次で試合の流れを左右する。

「常に冷静で、パスやランでチームの勢いを盛り上げるQBになりたい」。視線はすでに先へと注がれている。(総合政策3 水野 加奈子、写真も)

「アメフトは高校時代、大、南山大戦に途中出場、名大戦からフル出場した。「使ってもらってありがたかった」。

「使ってもらってありがたかった」。反面、満足できるプレーをしていない」と心情を吐露する。試合を左右する役割を担い、その肩には重圧が押し掛かった。

試合を重ね、パスが成功、自らのランプレーでタッチダウンも奪った。「試合中に先輩達に声を掛けてもらって助かっている」。

プレーを通じ、上級生の信頼も得つつある。今季はランプレーが多かったが、アメフトの醍醐味でもあるミドルパスやロングパスを「決められるようになった」と話す。



# 勝つ感覚得た 男子バスケ

常葉大戦でリバウンドを奪う中京大の選手たち (松本彩香撮影)



11月末から12月にかけての全日本インカレに、サッカー部とバスケットボール部の男子、バレーボール部とハンドボール部の男子女子が出場する。いずれも東海リーグで他校を圧倒する力を見せ、全国の舞台で上位進出を狙っている。関東の強豪校などを相手にどんな戦いをするか、期待が高まる。(現代社会3 松本彩香、山田翔子、現代社会2 吉田梨花子)



怪我から復帰して活躍する1年生DLMの西村佳祐選手 (山田翔子撮影)

男子バスケは、3年連続1回戦負けの悔しさをバネに、ベスト8の目標を掲げる。6月の西日本インカレは3位、東海リーグは2位で突破した。関東、関西への遠征を3月から始め、1-3年生中心のチームは経験を積み、勝つ感覚を得て自信が戻ってきた。体格差を埋めるため、徹底して走り、ウエイトトレーニングで当たり負けしない体を作った。



酒井さんと中村さん (左)

伊藤彰浩主将(体育4、愛産大工業)は「大柄な選手にコンタクトで負けず、中京らしい基本的なプレーを堅実に、勝ちに近づきたい」と決意を語る。

## ハードな両立生活 教員合格17人

### 集めた情報もフルに活用

人になる。このうち、愛知県高校教員(保健体育科)に合格した酒井征昭さん(春日井)と、名古屋市中学校教員に合格した中村早希さん(中京大中京)の体育学部生2人の取り組みを紹介しよう。

と振り返る。世界選手権へは採用試験の翌日に出発した。試験対策は、自分に合った教職教養の参考書を1冊選び、昨年9月から徹底して勉強した。2年生の4月から1回ずつ小学校で活動を始め、小学校教員を目指す。中村さんは、名古屋市の教員養成講座に通い、「おかげで1次は合格し、2次は保健体育の教科書を勉強した。先生や先輩から多くの情報を集めたことが面接に役立った。」

# インカレに6チーム

## 男子サッカー 4強めざす

全日本大学選手権は2000年に優勝、10年に準優勝しているサッカー部は、まさかの初戦敗退を喫した昨年の雪辱に燃えている。

東海リーグでは今年トップを走り、すでに大学選手権(12月14日開幕)の出場権を得ている。今年の特徴は、FW橋本裕貴選手(スポーツ科、桐光学園)、MF水野隼人選手(スポーツ科、野洲)ら1年生が積極的に起用された点だ。

DFの西村佳祐選手(スポーツ科、清水商)もその一人。4月に足首を故障したが、リーグ後期の9月から出場した。「初めての3バックに戸惑いましたが、先輩方がしっかりと教えてくれます。自分自身、試合ごとに落ち着きが増していると感じています」と、着実に成長してきている。

# 目標V

## 女子バレー

8月の総理大臣杯では、初戦の早大戦で激闘を演じ、PK戦の末に勝ったが、疲れが残る中での準備が、疲れが残る中での準備が、

決勝で惜敗した。朝倉吉彦監督は「総理大臣杯に比べれば涼しくて消耗も軽いのので、戦い抜けると思っています。今年は夏以上のベスト4を目指して頑張りましょう」と話している。

「目標は全国優勝」と力を込めるのは、女子バレーのエース、川島里華主将(体育4、九州文化学園)だ。

## 男子バレー 秋の無敗で自信

男子バレーは、秋季リーグで9季ぶり優勝を無敗で達成した勢を保ち、全国上位入賞を目指す。秋季は、最終試合で惜しくも1セット落としたが、それまですべてストレート勝ち。親川隆英主将(体育4、大塚)は「選手みんながチームとして強くなることを目指しています。」

川島主将は「1年生が多い分、勢いのあるチームです。今後どれだけ試合で経験を積んでいけるかが、インカレで勝つ鍵です」と若いチームをけん引する。

## Chukyo's COACH

### ハンドボール部 船木浩斗監督



船木浩斗監督 (ふなき・ひろと) 宮崎県都城市出身。ハンドボールは中学1年から始め、高校は岐阜・瓊浦高3年で高校総体優勝。筑波大学では2年連続インカレ優勝、主将も務めた。実業団の間でプレーした後、「コトを学びたい」と大学進学。2012年に中京大学スポーツ科学部男子ハンドボール部に就任。2013年11月、男子2連覇、女子3年ぶり3回目のインカレで優勝した。

## 個性に合った教え方模索

「選手の主体性を一番に考え、勝ちたい、上手になりたい、という気持ちの後押ししている」。大学生を二人の大人と見て、高いレベルのハンドボールを教える。船木監督の指導スタイルは、勝負を楽しめ、喜びを分かち合う。ただし、選手が試合中に攻撃や防御の約束事を破った場合は注意する。自分の力を出し切れない時は叱ること。選手たちにはプレーの技術だけでなく、そこから得られた成果を喜ぶことを体験してほしいと願っている。

## 決勝に進もう 男子ハンド

昨年の全日本インカレで3位となった男子ハンドは、「準決勝突破」を掲げ、決勝の舞台に駒を進めたい。中野創介主将(体育4、愛知)はインカレに向けて、「新しいことはせず、個々の技術を磨き、パスやシュートの精度を上げていきたい」と気合は十分だ。

## 速攻を武器に 女子ハンド

女子ハンドは、8月の西日本インカレで3年ぶりの準優勝を果たし、波に乗っている。秋季リーグでは「守ってからの速攻」で得点を重ね、6季連続のリーグ優勝を果した。平井花波主将(体育4、星城)のリーダーシップの下で、チームが

「中京大学のスタイルで思い切ったぶつかりたい。関東の上位チームに泡吹かせたい」。船木監督率いる両チームの活躍が楽しみだ。(現代社会3 金原優香)